

令和6年度

国 語

(解答はすべて解答欄に記入すること)

この試験問題は持ち帰ることができます。  
なお、本問題で利用した著作物は、著作権法第36条により、  
試験の目的上必要と認められる限度において複製したものです。  
同目的以外の利用はできません。

(長野県教育委員会)

受験 番号					氏 名	
----------	--	--	--	--	--------	--



(注) \*問題作成上二部省略した箇所がある。

(内田 樹「武道論」)

(一) —— 線部 a s e について、漢字は読み方をひらがなで書きなさい。

また、カタカナは漢字に直し、楷書で書きなさい。

〔 a ト b アイサツ c 対価 d ハジ e コカツ 〕

(二) 次の文法の問題に答えなさい。

(i) —— 線部①の「の」と同じ意味・用法のものを —— 線部アイオから一つ選び、記号で書きなさい。

(ii) 空欄 あ に当てはまる接続詞を、次のアイオから一つ選び、記号で書きなさい。  
〔ア だから イ ただし ウ 例えば エ つまり オ すると 〕

(三) —— 線部②「才能の生き死にの分岐点」とあるが、才能の「生き死に」とはどのようなことであると筆者は述べているか。   こと。   につながるように、

に当てはまる言葉を、本文中から二十八字で抜き出し、最初の五字を書きなさい。

(四) 本文中の空欄 A に入る最も適切な言葉を、次のアイオから一つ選び、記号で書きなさい。

〔ア 合理化 イ 均一化 ウ 具体化 エ 多様化 オ 構造化 〕

(五) 次の段落は、どの段落の後につながるのが最も適切か。その段落番号を一つ書きなさい。

(六) 次の中から、本文の内容に当てはまらないものを次のアイオからすべて選び記号で書きなさい。

ア これまで天賦の才に恵まれた多くの若者は、才能の本質に目を向け、才能の効率的な使い方について十分に理解していた。

イ 多くの才能ある若者たちは、贈り物に対する反対給付義務が、その贈り物をもたらした利益を別の誰かに向けて純粹贈与として差し出すことによつてしか果たされなないことを知っている。

ウ 才能が「要る」人がいたら、その人のために用いようと考えられる人は、天賦の才能を専一的に自己利益の増大に費やすことはない。

エ 「この能力は私物ではない」と推論することができる人は、天賦の才能を「呼び水」として、大きな自己利益を得ることができる。

オ 「私の才能は公共財だ」と思っている人は、贈り物を受け取った以上、それに対する反対給付義務が自分にはあり、それを怠ってはいけなさと感じている。

〔問二〕 次の文章を読んで、後の各問いに答えなさい。なお、設問の都合上、表記を改めた部分、訓点を省いた部分がある。

(「貞観政要」新釈漢文大系)

(一) 線部①「吾心如秤」の「秤」が示す意味を次のア、イ、ウから一つ選び、記号で答えなさい。

- |   |      |   |      |   |      |
|---|------|---|------|---|------|
| ア | 正確無比 | イ | 唯一無二 | ウ | 公平無私 |
| エ | 適材適所 | オ | 取捨選択 |   |      |

(二) 線部②「又時有事不欲人聞」は、「又、時に小事の、人の聞くを欲せざるもの有れば」と読む。この読みに従って、白文に返り点と送り仮名をつけなさい。送り仮名は、カタカナで書くこと。

(三) 本文中の **A** に当てはまる適切な言葉を本文中から一字で抜き出して書きなさい。

(四) 線部④「欲人不知、莫若不爲。欲人不聞、莫若勿言。」が述べている意味として最も適切なものを、次のア、イ、ウから一つ選び、記号を書きなさい。

- |   |                                                   |
|---|---------------------------------------------------|
| ア | 人が望むことを知らないならば、しないがよい。人が望まないことを知りたいのであれば、言わないがよい。 |
| イ | 人が知らないことを望むならば、しないがよい。人が聞かないことを望むならば、言わないがよい。     |
| ウ | 人が望むことを知らないならば、するがよい。人が望まないことを知りたいたのであれば、言うがよい。   |
| エ | 人が知らないことを望むならば、するがよい。人が聞かないことを望むならば、言うがよい。        |

(五) 「貞觀政要」は、唐の太宗と臣下たちとの問答形式により、指導者として国を

治めるものとしての心構えを示した書である。これを踏まえ、本文の内容を子供たちの前に立つ教師としての資質にどのように生かせようか。次の条件1と条件2にしたがって書きなさい。

条件1 本文から、教師としての資質に生かせそうな箇所を引用して書くこと

(ただし、引用するときは、訓点が必要ない)。

条件2 六十字以上八十字以内で書くこと。

〔問三〕 次の文章を読んで、後の各問いに答えなさい。なお、設問の都合上、一部表記を改めた部分がある。

(十訓抄「新編日本古典文学全集」)

(二) ……線部ア〜オの動作の中で、①主語が同じ人物になるものをすべて選び、記号を書きなさい。また、②その主語にあたる人物をa〜dから選び記号で書きなさい。

〔 a 公達      b 主      c 侍      d 古人 〕

(二) ———線部①「このほど、いたはることありて」A、かくて聞き侍る。いと便なく侍り、と聞えよ」にかかわって答えなさい。

(i) A に当てはまる最も適切な言葉を次のア〜エから一つ選び記号で書きなさい。

〔ア なむ      イこそ      ウらし      エばや 〕

(ii) ———線部①の言葉を述べた人物が、このような話題を付け加えた理由を四十字以上五十字以内で書きなさい。

(三) ———線部②における会話文の箇所を抜き出し、最初と最後の五字を書き抜きなさい。

(四) ———線部③「本意」とあるが、公達にとってどのようなことが本意であったと述べているか、簡潔に書きなさい。

(五) 本文中には次の一文が入る箇所がある。この一文の直後の三字を、本文中から書き抜きなさい。



(六) ———線部④「工の木を用ふるがごとし」とは、どのようなことを喩えているか、最も適切なものを次のア〜エから一つ選び、記号で書きなさい。

ア その人の良し悪しではなく、その人の希望をよく聞いて人を使うべきである。  
イ その人の良いところを伸ばし、悪いところを補うべきである。  
ウ その人の良し悪しにかかわらず、その人らしさを大切にすべきである。  
エ その人の良し悪しをよく考えて、人を使うべきである。

(七) 「十訓抄」より前の時代に成立した作品として適切なものを次のア〜エから一つ選び、記号で書きなさい。

〔ア 太平記      イ 風姿花伝      ウ 雨月物語      エ 大鏡 〕

〔問四〕 「中学校学習指導要領」(平成二十九年三月) 第2章各教科 第1節国語

に即して次の問いに答えなさい。

(一) 「各学年の目標」の「思考力、判断力、表現力等」について、左の表中の ①

⑤ に入る適切な語句を書きなさい。

表

	第1学年	第2学年	第3学年
思考力、判断力、表現力等	(2) ① 立てて考える力や豊かに ② たり想像したりする力を養い、 ③ 生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを確かなものにすることができるようにする。	(2) ④ に考える力や ⑤ したり想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	(2) ④ に考える力や深く ⑤ したり豊かに想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

(二) 次の文は、各学年の「2内容(知識及び技能)」(3)「我が国の言語文化に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。」のAである。空欄 A

E に入る適切な語句を書きなさい。

第1学年 ア 音読に必要な文語のきまりや訓読の仕方を知り、古文や漢文を音読し古典特有の A を通して、古典の世界に B こと。

第2学年 ア 作品の C を生かして D するなどして、古典の世界に B こと。

第3学年 ア E などに注意して古典を読むことを通して、その世界に B こと。



問一 三十二点 (一) 二点×5 (二) i 三点 ii 二点 (三) (四) (五) 各四点 (六) 五点

(一)	a	遂(げた)	b	挨拶	c	たいか	d	弾(き)	e	枯渴
(二)	i	オ	ii	イ						
(三)	自	分	の	た	め					
(四)	オ	(五)	8							
(六)	ア	イ	エ							

問二 二十二点 (一) 三点 (二) 五点 (三) (四) 各四点 (五) 六点

(一)	ウ																		
(二)	又 時 <sup>ニ</sup> 有 <sup>レ</sup> バ 小 事、 不 <sup>ル</sup> モ、 欲 <sup>ニ</sup> 人、 聞 <sup>ク</sup> ラ																		
(三)	益			(四)	イ														
(五)(例)	「	欲	人	不	知、	莫	若	不	爲。	欲	人	不	聞、	莫	若	勿	言		
	」	と	あ	る	よ	う	に、	自	分	の	言	葉	や	行	動	を	常	に	
	正	し	く	あ	ろ	う	と	自	覚	し	て	い	く	こ	と	が、	教	師	と
	し	て	の	資	質	に	生	か	せ	そ	う	だ	と	考	え	る。			

問三 二十六点 (一) ① 三点 ② 二点 (二) i 三点 ii 四点 (三) (四) (五) (六) 各三点 (七) 二点

(一)	①	イ エ		②	b	
(二)	i	ア				
	ii(例)	体	調	不	良	を
		り、	公	達	の	願
		ある	こ	と	を	に
			お	わ	す	た
			め。			
(三)	申	せ	と	候	ふ	く
				し、		と
				候	ふ	
(四)(例)	近衛司になること					
(五)	古	人	い	(六)	エ	(七)
						エ

問四 二十点 (一) 二点×5問 (二) 二点×5問

(一)	①	筋道	②	感じ	③	日常	④	論理的	⑤	共感
(二)	A	リズム	B	親しむ	C	特徴	D	朗読	E	歴史的背景